

## 森林管理署長等語る

令和2年9月

福島森林管理署白河支署長 古張 道朗

### はじめに

福島森林管理署白河支署の概要等については、前支署長が平成29年10月号の「森林管理署長等語る！」で記載しており、現在もほぼ同様に事業等の取り組みを行っていますので、今回は当支署が所在する白河市の、史跡等をご紹介します。

### 1 白河の歴史等について

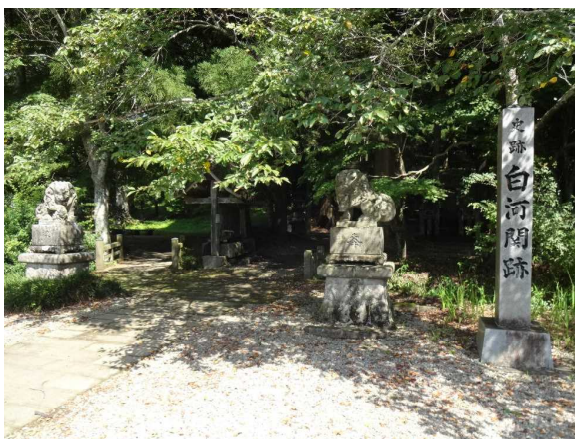
#### ○ 古代から中世について

白河市の舟田地区には、6世紀後半の古墳として下総塚古墳(前方後円墳)や舟田中道遺跡の豪族住居館跡があり、当時この地方を治めていた豪族の本拠があったと確認されています。(白河舟田・本沼遺跡群)

大化の改新の後、律令制の導入とともに国・郡・里の地方行政組織が確立された頃には、古代白河郡は17の郷から構成される陸奥国最大規模の郡で、古代白河郡衙<sup>ぐんが</sup>が設けられ、白河郡衙の付属寺院として建立されたと考えられている借宿廃寺跡があります。(白河官衙遺跡群)

また、平成20年に発掘された野地久保古墳は、東北初の上円下方墳であり、白河郡衙が律令国家体制の北の要の地であったことが示されています。(白河舟田・本沼遺跡群)

南の旗宿地区には、白河関跡があります。白河の関は江戸時代にも関所があったと思われがちですが、実際は8～9世紀に機能していたと考えられており、江戸時代に白河藩主だった松平定信が考証、空堀・土塁が残る現在の地が白河の関であると断定して「古関蹟碑」を建てています。(白河関跡)



白河関跡入口



古関蹟碑

古代白河郡は、現在の白河市・西白河郡・東白川郡・石川郡と茨城県大子町をあわせた非常に広い地域でありましたが、律令制の衰退とともに荘園に分立し、11世紀～12世紀にかけて白河荘、石川荘、高野荘に分かれたと考えられており、白河荘は平安末期から室町時代に至る中世の行政単位となっていたもので、ここから約400年に及ぶ結城氏による支配の始まりとされています。

白河荘を拠点として陸奥国南部を支配していた白河結城氏の祖とされる結城祐広が、1289年頃に白河駅から東へ約3kmの藤沢山に、下総結城より移住し、白川城を本拠としていたと伝えられているのが白川城跡です。

その後、南北朝内乱期を経て、白河結城氏は白河荘全体を掌握・領有し、室町時代中期には、奥州南部から北関東にまでその勢力を伸ばしていったとされています。

1467年に起こった応仁の乱をきっかけにして全国に波及した争乱は白河結城氏にも及び、1510年に一族の小峰氏が惣領の結城政朝を那須に追放し、小峰氏の血統による新たな白河結城氏が創設されましたが、この争乱により白河結城氏の周辺勢力への影響力が失われ、白河の南東部は常陸の佐竹氏、北西部は会津の葦名氏、北部は伊達氏が勢力を拡大して、白河結城氏の支配領域は徐々に狭まり、1590年に豊臣秀吉による奥州仕置で白河結城氏は改易となり、約400年にわたる白河地方での支配は幕を閉じます。

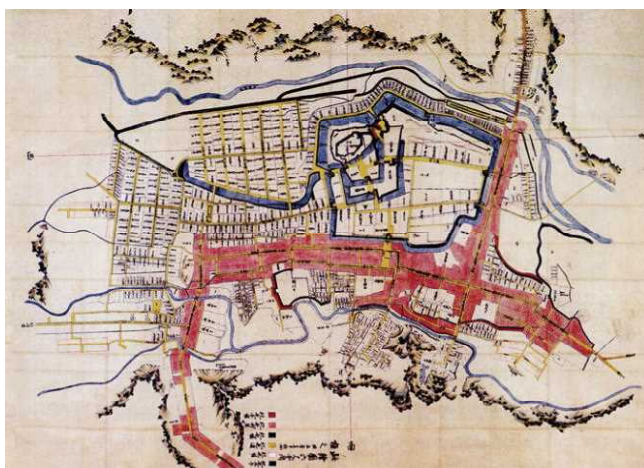


白川城跡

## ○ 近世について

白河結城氏が奥州仕置で改易されると、白河は会津を領した蒲生氏郷の領地となり、蒲生時代に小峰城の城郭の改修と町割りが行われ、城下町の基礎的な部分を造っています。

その後、1627年に、会津藩から10万余石をもって独立し、初代白河藩主 丹羽永重から榊原、本多、松平(奥平)、松平(結城)、松平(久松)、阿部の7家21代の大名が白河藩主を務め、最後の藩主となった阿部正外が榊原へ転封を命ぜられ、以後幕府領(城郭は二本松藩丹羽氏の預かる所)となりました。初代白



白河城下絵図(松平定信時代)

河藩主丹羽永重は小峰城の大改修及び城下町の町割りも行い、城下に水路を設けるとともに「大工町」「金屋町」などの職人に関わる町を置くなど、現在もほぼそのままの町割りとなっています。また、旧奥州街道も当時のままのルートで、国道294号線として残っています。



## ○ 近現代

明治維新後の明治2年8月に「白河県」が発足し、管轄は9郡361箇村で、初代県知事(権知事)は清岡公張が務め、県庁を旧小峰城内に新築しています。2年後の11月2日に第一次府県統合により二本松県に編入され白河県は廃止となり、その後に福島県に合併されました。清岡公張は、二本松県及び福島県においても権知事を務めています。

なお、白河県は「諸藩取締奥羽各県当分御規則」に従って設置された県ではありますが、明治政府が権知事を任命した訳ではないとのことから、明治政府の公文書には記載が残っていないため、正式な県とは認められていないとのことです。

## 2 小峰城

小峰城の歴史は古く、南北朝時代(1340年頃)に、結城宗広の嫡子親朝が、現在、小峰城跡がある丘陵に築城して小峰城と名付けたのが始まりで、1510年頃の小峰氏の血統により新たな白河結城氏が成立した時期に、結城氏の本拠も白川城から小峰城に移ったとされています。その後、初代白河藩主丹羽永重が4年の歳月をかけて1632年に大改修を完成させ、これにより、東北地方にはまれな石垣を多用した強固な城郭に変貌を遂げました。

幕末の1868年に城主がいないなか戊辰戦争を迎え、小峰城は奥羽越列藩同盟軍と新政府軍との激しい攻防の舞台となり、5月1日に落城焼失しました。現在は本丸周辺部の石垣と堀の一部が当時のまま残存し、平成3年に本丸跡に三重櫓、平成6年には前御門が史実に基づき復元されています。

また、東日本大震災により石垣が崩壊するなどの被害に遭い、修復工事のため入城できませんでしたが、2015年から入城可能となり、全国ラーメン祭りや桜祭り等の各種イベントの開催が城内の城山公園で行われています。

なお、2019年4月には石垣の修復が全て終了しています。



小峰城の想定復元図



復元された三重櫓と前御門

## 3 幻の名園「三郭四園」と南湖公園

現在、支署が所在する地区(郭内)は、白河藩主松平定信が老中退任後に御殿の造営と共

に造ったとされ、幻の名園と言われている「三郭四園」があった場所です。

1794年に「南園」を造り、2年後に南園の西側に「西園」、更に2年後に東側に「東園」を造り、三郭四園を完成させています。「南園」は、将軍家斉から拝領した朝日蓮や白蓮を植栽した太清沼の泉水を中心に、その池に渡した金糸堤・観魚橋・停車橋・燕子橋等の橋梁や、清風亭・翠陰亭・有斐亭の亭榭、松林・梅林などから構成されていました。「西園」は、錦鯉や緋鯉が放流された月池を中心に、噴水、瀑布、西湖橋、露台、飛石や、花亭・泉亭・有斐亭の亭榭などで構成されており、「東園」は、泉水を中心に湖面に鳥居を持つ天女祠、松月亭・惜月亭などから構成され、三郭四園は、これら三園から成り立つ池泉回遊式庭園であったとされています。



三郭四園があった場所(白枠内)

なお、当支署のあたりは定信が住居としていた「三之丸御殿」が建っていた箇所になります。また、定信は江戸築地に「浴恩園」、大塚に「六園」、深川入船町に「海荘」の庭園を築いていますが、現在はいずれも残っているところは無いとのこと。



白河三郭四園北面之図(国立国会図書館蔵)模写

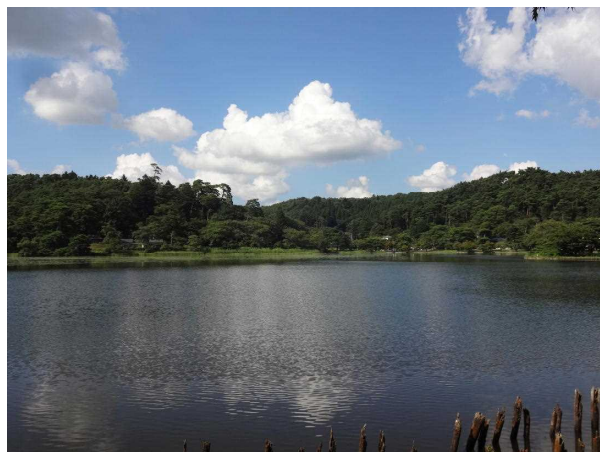


白河三郭四園復元想定図



南湖公園は、定信が1801年に大沼と呼ばれていた湿地帯の堰堤を改修するとともに、湿地の浚渫を行い、水を満面と湛える湖面を造り、湖畔には松、桜、楓を植え、湖には魚を放流して公園を完成させたもので、日本における公園の先駆けとされており、柵等の囲いを設けず、武士階級はもとより士民が楽しむ(士民共楽)ために造られた行楽の園地です。この士民共楽の理念と南湖の自然美が評価され、大正13年(1924年)に国の史跡及び名勝に指定されました。

また、南湖公園内には、松平定信を祭神とする「南湖神社」があり、当支署の職員も安全祈願の参拝をしているところです。南湖神社への道沿いには、公園が造られたところに提供されたとする、折箱に餡と団子が入った名物の「南湖だんご」を販売している店が並んでいます。現在は、5軒が営業しており、店それぞれに違う味わいがあり、餡のほかにも、みたらし、ごま、ずんだ、味噌味が注文できます。なお、賞味期限が1日となっていますので、購入する際は数量にご注意願います。



南湖公園



南湖神社入り口

#### 4 寺院等について

城下町であった市内の寺院については、江戸時代に7家21代の大名の領地となり、大名の転封ごとに寺院も入れ替わりがあったことから、現在は21寺院が残っており、時宗、曹洞宗、真言宗、天台宗、日蓮宗、黄檗宗、浄土宗、臨済宗、浄土真宗等、ほとんどの宗派の寺院があります。その中の妙閑寺には、仙台藩主伊達政宗から譲り受けたものと言われている、樹齢約400年のしだれ桜「乙姫桜」があり、毎年、桜の満開時には大勢の人が見学に訪れます。

また、江戸時代白河藩の総鎮守として崇拝された鹿島神社もあります。この鹿島神社の例大祭として、隔年の9月に開催される鹿島神社祭礼渡御祭は、通称「白河提灯まつり」と称されており、白河の人々によって約350年守り伝えられてきたものです。この提灯まつりは、昼に、鹿島様である神社神輿が旧城下町を渡御する総町渡御や、子供たちによる屋台山車の引き回しが行われ、夜には、旧奥州街道沿いを神輿が各町の提灯行列によって送迎される神輿渡御が行われるとともに、1日目の神社から出発する時と3日目の神社へ帰還する時に、神輿は阿武隈川を渡河します。(最後の写真)

令和2年は、例大祭を行う年でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。



妙関寺(日蓮宗)の乙姫桜



鹿島神社拝殿

## 5 おわりに

白河市内には、上記で紹介した国指定の史跡・名勝(白河舟田・本沼遺跡群、白河官衙遺跡群、白河関跡、白川城跡、小峰城庄、南湖公園)のほかにも、初代藩主丹羽永重や小原庄助の墓がある寺院、小峰城の外堀土塁や石垣、脇本陣の蔵座敷、提灯まつりで使用する屋台山車が入っている会館や、1820年頃から制作されていたとされる「白河だるま」を今も制作している店舗があるなど、白河の歴史探訪が歩いてできますので、興味があれば是非一度散策してみてください。

なお、散策に便利な「街歩きマップ」が、白河観光物産協会から発行されており、駅や食堂等で入手できます。

また、市内のラーメン店が網羅されている「ラーメンマップ」も発行されていますので、自分好みのラーメンを探してみたいはいかがでしょうか。



白河提灯まつり 神社神輿の渡河

(写真:白河市ホームページから)